●特集／アカデミック・リンク松戸完成記念
Feature Article／Commemorative issue on the completion of Academic Link Matsudo project

アカデミック・リンク松戸完成記念特集を組むにあたって
Special feature on the completion of Academic Link Matsudo project

小林　達明　千葉大学附属図書館松戸分館，千葉大学大学院園芸学研究院
KOBAYASHI, Tatsuaki　Chiba University Matsudo Library, Graduate School of Horticulture, Chiba University

抄録
アカデミック・リンク松戸事業の概要を説明し，完成を記念して行われた展示会および講演会に関する記事について紹介した．アカデミック・リンク松戸は「感性に優れた考える学生」を育成するために，「学習とコンテンツとフィールドの近接」のコンセプトを体現する図書館施設として整備された．大学図書館の空間的意義と所蔵する園芸関係資料の現代的意義を考える展示会・講演会を行い，アカデミック・リンク松戸の可能性について検討した．

ABSTRACT
An overview of the Academic Link Matsudo project was given and the articles about memorial exhibitions and lectures were introduced. Academic Link Matsudo was developed as a library facility that embodies the concept of “the spatial proximity of learning, content, and field” in order to foster “thinking students with excellent sensitivity.” We held exhibitions and lectures on the spatial significance of the university library and the contemporary significance of the horticultural documents housed there, and examined the potential of Academic Link Matsudo.

平成29年秋に始まった千葉大学附属図書館松戸分館の改修工事は，令和元年９月に竣工し，ランドスケープ工事を含めて令和３年３月に完工した．この改修事業は，老朽化施設の更新工事というだけでなく，いくつかの意味を有している．

第一に，千葉大学は，「生涯学び続ける基礎的な能力」「知識活用能力」を持つ『考える学生』を育成するために，全学あげて，アカデミック・リンクのコンセプトを教育に展開している．その基幹組織としてアカデミック・リンク・センターがあり，基盤施設である附属図書館本館の改修整備がまず西千葉キャンパスで行われた．その全学的展開の一環として，松戸分館の整備が計画された．本館は「学習とコンテンツの近接」をコンセプトにした斬新な空間づくりに成功し，学生ならびに社会から高い評価を得ていた．その成果をもとに，園芸学部･大学院園芸学研究科を有する松戸キャンパスでは，「学習とコンテンツとフィールドの近接」がコンセプトに掲げられ，アカデミック・リンク松戸整備が計画された．アカデミック・リンクの考え方･具体的な活動の詳細については，座談会記事を参照されたい．

第二に，施設を取り巻くランドスケープも含めた整備が行われ，それが，一般からの寄附金を併せて成し遂げられたことである．本事業の建物工事は国の施設整備費で行われたが，「学習とコンテンツとフィールドの近接」のコンセプトを体現し，既存の歴史的庭園と結びついたランドスケープ整備については予算がつかなかった．そのため，千葉大学園芸学部および同窓会である戸定会，保護者会である後援会の三者協同による募金活動が行われ，松戸市民を含め広く寄附を募ることができ，事業が完成した．本事業は，2021年度グッドデザイン賞を受賞した．

松戸キャンパスは，明治末から大正初めに，園芸専門学校の教育の一環で整備された歴史的庭園群を有している．アカデミック・リンク松戸の計画にあたっては，その歴史性を考慮し，それらとひとつながりの図書館であることが企図され，図１のような配置関係で計画された．そのポイントとなる施設が「緑のテラス」で，建物２階アクティブ・ラーニング・スペースとイタリア式庭園をつなぐとともに，開かれた図書館空間を演出するランドスケープとなっている（図２）．

松戸キャンパスはまた，周囲を斜面林で囲われた台地の自然環境豊かなガーデン・キャンパスとして位置付けられている．アカデミック・リンク松戸は持続可能なデザインとしても取り組まれ，雨水を自然浸透させる施設として，緑のテラス下端には雨庭（レイン・ガーデン）が整備された．公共施設ランドスケープの意義については，名古屋市立大学・大野暁彦准教授に「『つながり』をつくる風景デザイン」というタイトルで講演いただいた．本特集では講演要旨を掲載する．

doi：10.20776/S18808824-76-S-P1

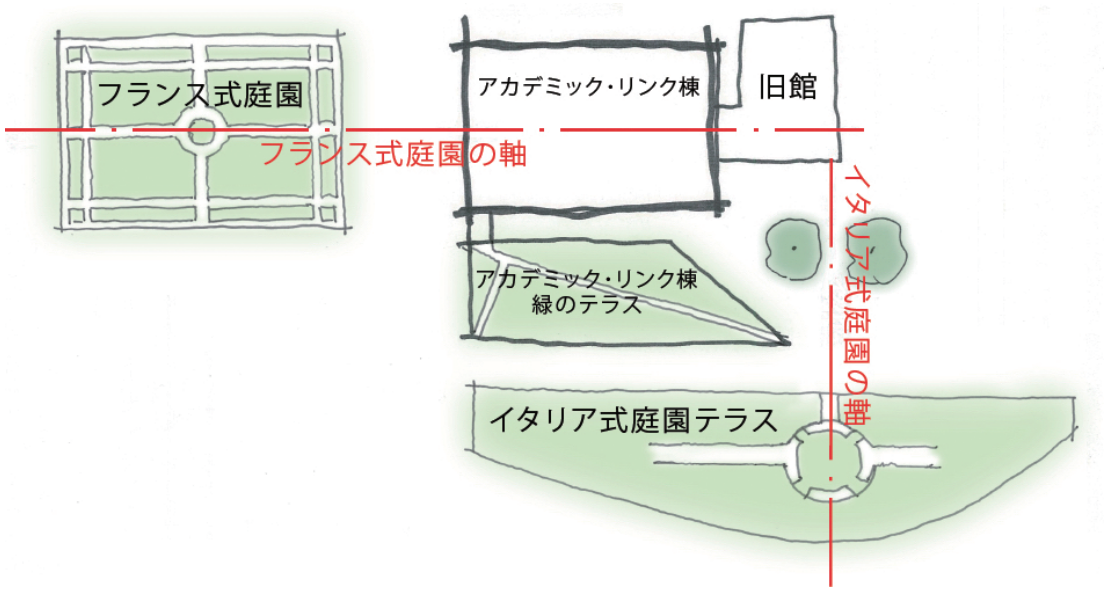

図１　アカデミック・リンク棟（現F棟）と歴史庭園の関係を示す平面ダイアグラム（木下剛氏作図）

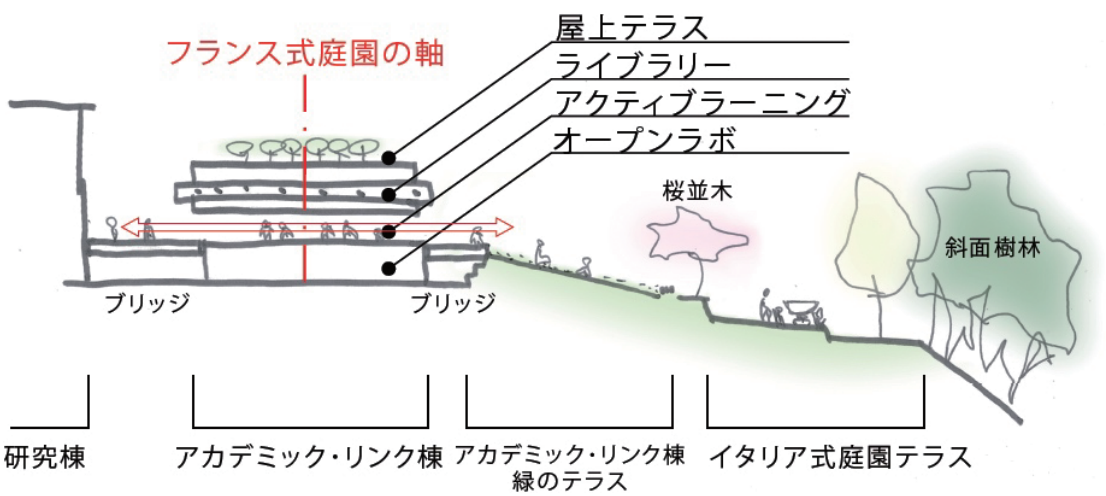

図２　アカデミック・リンク棟（現F棟）と歴史庭園の関係を示す断面ダイアグラム（木下剛氏作図）

第三の意義は，園芸専門大学図書館としての整備である．松戸分館は，県立園芸専門学校・千葉高等園芸学校・千葉農業専門学校・千葉大学園芸学部附属図書館から多くの図書を引き継いでおり，その大部分は開架供用されているが，一部は貴重書庫に所蔵され，それらは一般に公開されていない．その中心をなすのは，園芸書を集めた岩佐亮二名誉教授コレクションおよび造園書・資料を集めた小寺駿吉名誉教授文庫であり，いずれも目録化されている．岩佐コレクションの一部はデジタル化され，江戸・明治期コレクションとして，千葉大学学術リソースコレクション（c-arc, https://alc.chiba-u.jp/c-arc/engeisho.shtml）にオンライン公開されているが，その他の古図書も順次デジタル化を進める予定で，広く利用されていくことを期待している．園芸書コレクションの意義については，新潟県立植物園の倉重祐二園長に「江戸から近代　園芸の発展」というタイトルで講演いただいた．本特集では講演要旨を掲載する．

改修に伴う所蔵品の移動作業の中で，それら整理された古図書の他に，多くの目録化されていない和書・漢書・洋書があることがわかった．さらに，図書ばかりではなく，園芸専門学校時代28年にわたって図画を指導された田中寅三画伯と学生が描いた植物画も多く所蔵されていることが明らかになった．千葉大学園芸学部百周年記念関連の展示会でそれらのごく一部は活用されたが，千葉大学図書館として整理されることはなかった．それらは，わが国における園芸学・ランドスケープ学・植物学の発達を跡づける資料であるが，そればかりでなく，園芸学部にとっては，草創期の教育研究を伝える貴重な史料である．体系的な整理は今後進めていくとして，その存在を明らかにし，知っていただく必要があると考えた．

アカデミック・リンク松戸募金事業ではまた，「学習とコ

ンテンツとフィールドの近接」を謳う分館の未来的機能についても検討され，DNAやタンパクに関わる先端研究成果と園芸品種画像を結びつけるオンライン「花色素ライブラリー」が構築され，その成果が披露された．その内容の詳細については，稿を改めて今後紹介したい．

こうした経緯を経て，貴重書庫収蔵資料と開架資料を合わせて，近世から近代さらには未来に至るわが国園芸の変遷と本校における教育について，植物画を軸として一覧できる展示会を，「植物画と園芸」と題して，令和３年11月１日～14日の会期で分館２階アクティブラーニング・スペースにおいて行った（図３・４）．巻末に出品リストを掲載する．

以上の意義について議論するために，展示会会期中の11月７日には，戸定ヶ丘百周年記念ホールにて記念講演会を開催した．講演のあと，講演を解題しアカデミック・リンク松戸の可能性について議論するために座談会を行い，記録を本特集に掲載した．

展示会は，当初，令和２年10月の緑のテラス竣工に合わせて，同年11月に計画していたが，新型コロナ感染症流行のため中止を余儀なくされた．改めて令和３年11月１日～14日の会期で，感染症対策を考慮した事前予約制で，同時入館を10人以下に制限して，展示会を開催した．会期中の11月７日に，記念講演会を戸定ヶ丘百周年記念ホールで実施した．感染症対策を考慮して，会場に集まる人員は最小限に抑制し，一般にはオンライン公開した．また，講演と座談会はビデオ収録し，後日，千葉大学公式YouTubeチャンネルで放映した（https://www.youtube.com/channel/UClXAVLiq7quZF3o21jok9jw/videos）．

行事全体は，アカデミック・リンク松戸完成祝賀行事実行委員会で企画・実行した．

展示会については，小林，竹内智子，浄閑正史，木下剛，華岡光正，綾部輝幸，村上雅史，佐野悠が展示企画ならびにパンフレット原稿作成を行った．松戸市戸定歴史館・齊藤洋一氏，松戸市教育委員会・田中典子氏には，展示物の考証ならびに資料作成にあたってご助力ご助言を得た．花色素ライブラリーについては，出口亜由美，宮原平がコンテンツを提供し，國分尚，華岡光正，小林が株式会社アクセントと協力して構築を進めた．千葉大学図書館松戸分館・西千葉本館職員には，展示準備をしていただいた．板橋区立美術館・松岡希代子氏には，展示方法について貴重なご助言をいただいた．

講演会の開催については，小林，矢野佑樹，相馬亜希子，坂井史男が準備ならびに運営を行った．松戸地区事務課総務係ならびに戸定会事務局には，広報ならびに実施にご助力いただいた．

松岡延浩園芸学研究院長，竹内比呂也千葉大学附属図書館長，須田敏之松戸地区事務課長，加藤一郎戸定会長，賀来宏和同副会長，齋藤京子同副会長には，行事全般について，ご支援いただいた．

特集を始めるにあたって，行事にご協力いただいた以上の方々のお名前を記し，ならびにここで名前を記すことはできないがアカデミック・リンク松戸募金事業にご協力いただいた全ての方々に対して，心より感謝を申し上げる．

「植物画と園芸―千葉大学図書館松戸分館のコレクションか

図３　展示会「植物画と園芸」における園芸書の展示の様子

図４　展示会「植物画と園芸」における植物画の展示の様子（木下剛氏撮影）

ら」出展リスト

- 草木花写生：中村渓男・北村四郎著，1977年刊行，紫紅社．東京国立博物館蔵の狩野探幽（1602-1674）が十七世紀に描いた植物画をまとめたもの．
- 白百合：葛飾北斎（1760-1849）描の版画．
- 月夜桃と燕：歌川広重（1797-1858）描の版画．
- 本草綱目：李時珍（1518-1593）著，1596年初版刊行．角書の体裁から1672年版と推察される本を展示．
- Les Roses：Pierre-Joseph Redoute（1759-1840）著，1817～24年初版刊行．1974年版を展示．
- 椿花図譜：作者成立年不明，1969年刊行，講談社．宮内庁書陵部蔵のツバキ画をまとめたもの．
- 花壇綱目：水野元勝（生没年不明）著，1681年刊行．1948年復刻版を展示．
- 錦繡枕：伊藤伊兵衛三之丞（？-1719）著，1692年刊行．1976年復刻版を展示．
- 古歌僊楓集：伊藤伊兵衛政武（1676-1757）著，1710年刊行．
- 絵本野山草：橘保国（1715-1792）著，1755年刊行．
- 羣芳暦草木目録：北野鞠塢（1762-1831）著，1814年刊行．
- 春野七草考：北野鞠塢（1762-1831）著，1814年刊行．酒井抱一（1761-1828）によるナズナの挿絵を含む．
- 草木錦葉集：水野忠暁（1767-1834）著，1829年刊行．
- 松葉蘭譜：長生舎主人（1794-1870）著，1836年刊行．
- 花菖培養録草稿：松平定朝（1773-1856）著，1853年刊行．
- 三都一朝：成田屋留次郎（1811-1891）著，1854年刊行．
- C.P. Thunberg's drawings of Japanese plants：Y. Kimura and V.P. Leonov著，1994年刊行，丸善．ロシア科学アカデミー・コモロフ植物研究所図書館蔵のCarl Peter Thunberg (1743-1866)の植物画資料をまとめたもの．
- 泰西本草名疏：伊藤圭介（1803-1901）著，1829年刊行．
- 本草図譜：岩崎灌園（1786-1842）著，1830～44年刊行．1916～18年版を展示．
- 彩色寫生輸出百合花集：池田次郎吉（1863-?）著，1895年刊行．
- 日本園芸会雑誌：日本園芸会，1891年第１号刊行．第23号の牧野富太郎によるノジギクの図を展示．
- 植物学雑誌：日本植物学会，1911年第１巻刊行．第25巻の牧野富太郎によるヤッコソウの図を展示．
- 植物研究雑誌：牧野富太郎（1862-1957）主筆，1916年第１巻刊行．第１巻ほかを展示．
- 園芸学校講堂：田中寅三（1878-1961）描の油絵．
- 千葉県立高等園芸学校：湯浅四郎（？-1976 or 1977），1917年頃描のキャンパス平面図．
- 高等園芸学校鳥瞰図：森歓之助（1894-1960），1928年描のキャンパス俯瞰図．
- 田中寅三と学生の描いた植物水彩画57点，大正から昭和初期描．
- 花色素ライブラリー：千葉大学園芸学部，2021年作成（https://www.cu-hort.com/plant/index.html）．